



昨年12月初旬、私用で出雲を訪問した際、出雲大社に立ち寄りしました。せっかくの機会なので、出雲観光協会のガイドさんをお願いしました。道中、可愛らしいうさぎの像が様々なポーズで整列している松の参道横の西神苑で、「このうさぎたちは出雲大社が支援した学生さんたちが、卒業の記念にお礼として毎年贈っているものです。このかけっこしているうさぎ、今年の卒業生からの贈り物ですが、きっとスポーツが好きな学生たちだったのですね、私は個人的に『ダッシュうさぎ』と呼んでいます」とガイドさんが説明してくださいました。こういうガイドブックにも載っていない小話を現地在住の案内人から聞く、これがガイドを依頼する醍醐味だと思います。90分間、笑ったり感心したり、ガイド料以上に楽しませていただきました。



▲ 出雲大社の『ダッシュうさぎ』

翌日、境港でフェリーに乗るまでの時間をどう活用しようかと思案し、初めて安来市の足立美術館に行ってきました。美術館と言っても私は絵心がないので、世界一と評される日本庭園を楽しみにしていました。事前に足立美術館のホームページで「音声ガイド貸し出しあり」と書いてあったのですが、到着すると「感染症拡大防止のため貸し出し中止です」と言われてがっかりしました。おそらく世界一の美しさなのでしょうが、建築や庭園の知識のない私にはどこが「世界一の日本庭園」なのか、哀しいことに理解できませんでした。お金を払ってでもいいから、ガイドさんの話を聞

きながら鑑賞したい、と心から願いました。

西ノ島を訪れる観光客にも、私と同じように「西ノ島に住んでいるガイドさんの話を聞きながら旅したい」と思っている人たちが多くいるはずですよ。前回の本欄でもお知らせしたように、観光協会では「ふるさと案内人」を募集しておりますので、興味をお持ちになった方はお気軽にお問い合わせください。

余談ですが、足立美術館で庭園をわからないなりに「鑑賞」した私は、入館料の元を取ろうと、もっとわからない絵画も「鑑賞」してみようと挑戦しました。ところが説明を読んでも展示されている絵画の素晴らしさがさっぱりわからず、「やっぱり私は美術館に縁がないなあ…」と思って帰ろうとしたところ、王培という女流中国人画家の『伝承』という作品に心が奪われました。中国の少数民族の素朴ながらも鮮やかな民族衣装に身を包んだ、幼い少女ふたりを描いた日本画。そのふたりに見つめられ、まるで「あなたの人生、今のままでいいの？」と言われている錯覚に陥り、絵の前で足が動かなくなるという体験を人生で初めて経験しました。旅に出るにはお金も体力も必要ですが、ご縁で結ばれてお金で買えない体験を収穫でき、実り多い出雲行きとなりました。



▲ 窓枠越しに掛け軸のように見える
足立美術館の庭園



西ノ島町コミュニティ図書館

いかあ屋通信 vol.46



2月。暦の上では「春」になりますがまだまだ寒い季節です。いかあ屋で暖まっていけませんか。先月末に、館内整理をしました。本が増えたこともあって、本の並びが少し変わっているところもあります。変わったところや、本探しも楽しんでみてください。

大活字本 をご存じですか



臨時開館と休館のお知らせ

天皇誕生日の祝日に伴い、下記の日程で臨時開館及び休館いたします。よろしくお願いいたします。

★ 2月23日(水・祝) → 開館

★ 2月24日(木) → 休館

大活字本とは、活字を大きく印刷した本のことです。老眼や低視力の方が読書を楽しめるよう、文字の大きさが一般的な文庫本より約2.5倍も大きく、行間も広くとってあります。

いかあ屋には44冊置いてあります。県立図書館からも55冊借りています(9月まで)。一度、手にとってみられませんか。

その他、老眼鏡やリーディングルーペなども貸し出しておりますので、文字が見づらいなという時には、カウンターまでお声かけください。

リーディングルーペを使うと…



☆ いかあ屋からおすすめの本 ☆

「みそしるをつくる」

とーってもおいしそうなお味噌汁のつくりかた。

このくらい、という加減がわかりやすく表現されています。

この本を見ながら、お子さんやお孫さんと作ってみてはいかがでしょうか。

姉妹版、『おにぎりをつくる』もあります。どちらも最後に美味しいヒントがあります。



文：高山なおみ

写真：長野 陽一

出版社：ブロンズ新社

発行年月：2020/11

【お問い合わせ先】

西ノ島町コミュニティ図書館 〒684-0211 島根県隠岐郡西ノ島町浦郷 67-8

TEL：08514-2-2422 FAX：08514-2-2423 MAIL：ikaya@nishinoshimalib.jp